

令和5年度
高等教育推進センター
活動報告書（資料集）

目次

(1) 「ADEPT プログラム」申請及び修了状況報告	1
(2) 「データサイエンス人材育成プログラム（応用基礎レベル）プラス」申請及び修了状況報告	2
(3) 第9回ヨコハマFDフォーラム チラシ	3
(4) 令和5年度FD関連講演会等実績	5
(5) 令和5年度教学IR実施報告書	7
(6) 令和5年度高大連携実績	20

ADEPTプログラム受講状況

(R6. 4. 12時点)

		R3年度			R4年度			R5年前期		R5年後期			
		新規参加 申請者	修了者	未修了 卒業者	新規参加 申請者	修了者	未修了 卒業者	新規参加 申請者	修了者	新規参加 申請者	履修者	修了者	未修了 卒業者
国際総合科学部	1年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3年次生	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年次生	2	1	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0
小計		2	1	1	3	2	0	0	0	0	1	0	0
国際教養学部	1年次生	7	0	0	21	18	0	57	6	10	61	6	0
	2年次生	15	0	0	23	19	0	53	29	7	35	5	0
	3年次生	1	0	0	17	21	0	19	16	5	19	1	0
	4年次生	0	0	0	1	1	1	7	7	3	12	5	5
小計		23	0	0	62	59	1	136	58	25	127	17	5
国際商学部	1年次生	11	0	0	72	37	0	244	58	15	201	10	0
	2年次生	7	0	0	114	90	0	26	30	8	39	1	1
	3年次生	6	0	0	40	26	0	20	28	16	42	2	0
	4年次生	0	0	0	26	20	12	2	5	5	23	2	16
小計		24	0	0	252	173	12	292	121	44	305	15	17
理学部	1年次生	0	0	0	58	43	0	57	0	6	63	10	1
	2年次生	2	0	0	35	28	0	4	8	1	12	1	0
	3年次生	11	0	0	34	27	0	17	4	2	22	1	0
	4年次生	0	0	0	16	24	3	8	5	0	12	4	6
小計		13	0	0	143	122	3	86	17	9	109	16	7
データサイエンス学部	1年次生	15	0	0	53	37	0	40	1	2	42	12	0
	2年次生	5	0	0	31	41	0	5	10	0	12	3	0
	3年次生	5	0	0	24	19	0	4	1	0	6	4	0
	4年次生	3	2	1	28	30	4	3	0	0	13	9	3
小計		28	2	1	136	127	4	52	12	2	73	28	3
医学部 医学科	1年次生	7	0	0	14	14	0	20	5	14	29	5	0
	2年次生	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	3年次生	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0
	4年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	0	0	14	16	0	20	7	14	32	5	0
医学部 看護学科	1年次生	0	0	0	4	0	0	36	3	4	38	4	0
	2年次生	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0
	3年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4年次生	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
小計		0	0	0	4	0	0	37	4	4	42	4	0
合計		97	3	2	614	499	20	623	219	98	689	85	32

データサイエンス学部(応用基礎レベルプラス) (プログラム開始年度：令和４年度)
申請及び修了状況報告（令和５年度末時点）

	R４年度					R５年度					総計
	１年生	２年生	３年生	４年生	小計	１年生	２年生	３年生	４年生	小計	
参加登録者数	5	6	31	26	68	33	34	34	8	109	177
前期						32	31	33	7	103	103
後期	5	6	31	26	68	1	3	1	1	6	74
修了者数	0	0	7	0	7	0	0	10	1	11	18
前期									1	1	1
後期			7	0	7			10	0	10	17

第9回 横浜市内4大学FD連携

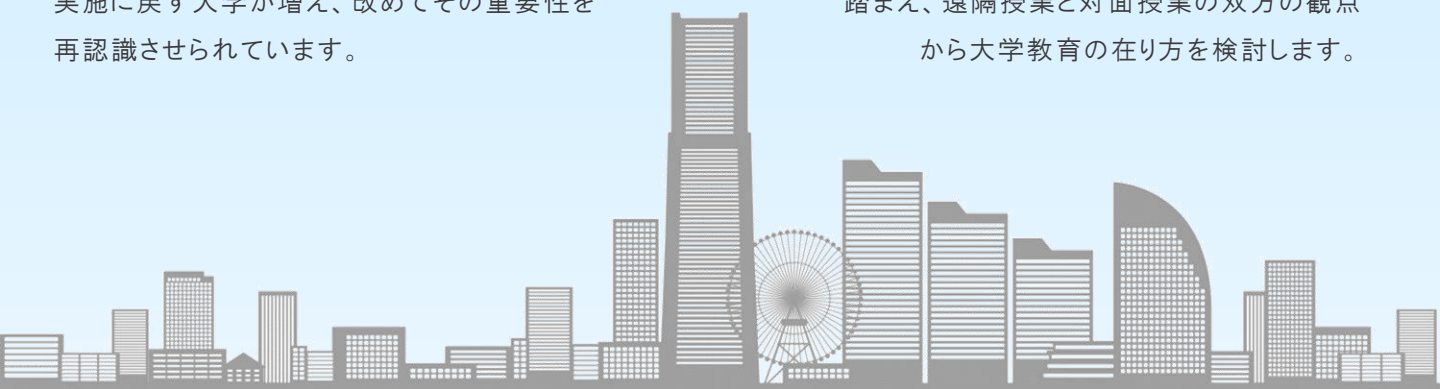
ヨコハマFDフォーラム

大学教育の新たな展望

—対面授業と遠隔授業の新たな教育モデルを検討する—

2023年度は新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行し、多くの授業を対面での実施に戻す大学が増え、改めてその重要性を再認識させられています。

対面授業でもICTを活用した授業が展開されるケースも増えていることから、コロナ禍の経験を踏まえ、遠隔授業と対面授業の双方の観点から大学教育の在り方を検討します。



日 時

2023年 12月 9日 (土)

フォーラム 13:30 ~ 16:45

情報交換会 17:00 ~ 19:00

会 場

神 奈 川 大 学

みなとみらいキャンパス

米 田 吉 盛 記 念 講 堂

*フォーラムのみZoom配信

対 象

大学教職員・学生
大学教育にご関心のある一般の方

定 員

対面 180名 Zoom 1,000名

参加費

フォーラム 無 料
情報交換会 会費制 (¥5,000)

ヨコハマFDフォーラムとは

2017年2月に横浜市内4大学(神奈川大学・関東学院大学・横浜国立大学・横浜市立大学)間で締結した「FD活動の連携に関する包括協定」に基づき、各大学でのFD(Faculty Development)活動の活性化に向けて相互連携・協力を目指し、例年12月に開催しているフォーラムです。

お 申 し 込 み 方 法

QRコード あるいは URLからアクセスのうえ、期日までにお申し込みください。

【申込締切】12月 3日 (日)



<https://forms.office.com/r/PDH9UPUcCg>

13:30 ~ 13:40 開会挨拶

神奈川大学 副学長 教育支援センター所長 戸田 龍介

13:40 ~ 15:30 事例報告

13:40 ~ 14:05 神奈川大学

「オンデマンド型遠隔授業における新たな教育の試み ～データサイエンス教育の実践～」

情報学部 システム数理学科 特任教授 松澤 和光

「コロナ禍を経て体験した大学授業における各授業形式が与える効果」

工学研究科 工学専攻 博士前期課程 1年 古宮 大暉

14:05 ~ 14:30 関東学院大学

「対面授業と遠隔授業の最適化を目指して:全学方針等を通じて」

副学長 高等教育研究・開発センター長 吉田 広毅

副学長 教務部長 高等教育研究・開発センター次長 江頭 幸代

「対面授業と遠隔授業の最適化を目指して:ハイブリッド型授業を事例として」

経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 1年 藤江 晃成

法学研究科 法学専攻 博士前期課程 1年 宮田 百華

14:40 ~ 15:05 横浜国立大学

「経営学部初年次基礎演習「経営学リテラシー」での取り組み」

経営学部 教授 青木 洋

経営学部 経営学科 1年 黒木 千雅

15:05 ~ 15:30 横浜国立大学

「オンライン授業の成果をアフターコロナの時代にどう活かすか」

国際教養学部 准教授 有馬 貴之

「コロナ禍におけるオンライン講義のメリットとデメリット」

国際教養学部 国際教養学科 4年 新垣 彩花

15:40 ~ 16:40 パネルディスカッション(事例報告者より)

ファシリテーター: 神奈川大学 学長補佐 教育支援センター副所長 中村 壽宏

16:40 ~ 16:45 閉会挨拶

関東学院大学 副学長 高等教育研究・開発センター長 吉田 広毅

17:00 ~ 19:00 情報交換会

神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F レストランVOYAGE

アクセスマップ



- みなとみらい線「みなとみらい駅」下車 > 徒歩 約6分
 - みなとみらい線「新高島駅」下車 > 徒歩 約4分
 - JR・東急東横線・京浜急行・相鉄本線・横浜市営地下鉄「横浜駅」下車 > 徒歩 約11分
 - JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車 > 徒歩 約12分
- * 駐車場・駐輪場はありません

お問合せ先

神奈川大学 企画政策部 教学改革推進課

お電話 045-481-5661 (代表)

メール fdsd-info@kanagawa-u.ac.jp



FD関連講演会等実績（令和5年度実績）

		令和5年度		
		①高等教育推進センター企画FD・SD研修会	②国際総合科学群FD・SD研修会	③国際総合科学群FD・SD研修会
国際総合科学群	日 時	令和5年5月31日	令和5年7月27日	令和5年7月31日
	会 場	対面・オンラインのハイブリッド開催	オンライン開催	オンライン開催
	参加人数	57名	62名	36名
	講演テーマ	日本の大学で学ぶ国際バカロレア(IBDP)出身学生の特徴	令和4年度学部長・共通教養長賞受賞者講演①	令和4年度学部長・共通教養長賞受賞者講演②
	講演者	岡山大学 教育推進機構 教育推進機構 准教授 ・IB入試推進室長 入試推進室長 入試推進室長 Sabina Mahmood 先生	土屋 隆裕 教授、越中 孝文 教授、鈴木 厚 教授	大島 誠 准教授、柴田 典子 准教授
		④第1回教養ゼミFD・SD研修会	⑤FD・SD 研修会	⑥FD・SD 研修会
	日 時	令和5年8月2日	令和5年10月23日	令和5年11月22日
	会 場	対面・オンラインのハイブリッド開催	対面・オンラインのハイブリッド開催	対面・オンラインのハイブリッド開催
	参加人数	60名	41名	33名
	講演テーマ	教養ゼミリニューアルの振り返り	ジェンダー平等を巡って（１） －前提知識としての基本的人権－	ジェンダー平等を巡って（２） －本学教員、大学院生から－
	講演者	本多 尚 共通教養長、 土屋 隆裕データサイエンス研究科研究科長 学術情報課担当者	森法律事務所 鈴木大樹弁護士	国際教養学部 佐藤 響子教授 国際商学部 中村 祐太准教授 生命ナノシステム科学研究科 博士後期課程 大川 真裕香さん 人事課 安部 和哉係長
		⑦第9回ヨコハマFDフォーラム	⑧国際総合科学群FD・SD 研修会（国際商学部主催）	⑨国際総合科学群FD・SD 研修会
	日 時	令和5年12月10日	令和5年12月14日	令和6年1月25日
	会 場	対面・オンラインのハイブリッド開催	オンライン開催	オンライン開催
	参加人数	124名	32名	25名
	講演テーマ	大学教育の新たな展望 ―対面授業と遠隔授業の新たな教育モデルを検討する―	国際学術誌への投稿：経験を語り合おう	サバティカル終了後報告会
	講演者	横浜市立大学・神奈川大学・関東学院大学・横浜国立大学 担当教職員及び学生	国際商学部 根本裕太郎准教授 国際商学部 加藤弘陸専任講師	国際教養学部 青 正澄教授 国際教養学部 平松 尚子准教授
		⑩国際総合科学群FD・SD研修会	⑪国際総合科学群FD・SD研修会（DS学部・DS研究科主催）	⑫情報関連科目FD・SD研修会
	日 時	令和6年2月9日	令和6年2月15日	令和6年2月19日
	会 場	対面・オンラインのハイブリッド開催	オンライン開催	オンライン開催
	参加人数	22名	36名	21名
	講演テーマ	学際・融合型研究	利益相反の概要と本学での事務手続き（臨床研究以外）の説明	2023年度情報関連科目の総括と次年度対応の検討
	講演者	国際商学部 原 広司准教授 理学部 ミクレット ルジェロ教授 理学部 大関 泰裕教授	データサイエンス研究科研究科長 土屋 隆裕教授 研究・産学連携推進課 原田 晴輝様	本多 尚 共通教養長、小野 陽子 情報教育委員会委員長

FD関連講演会等実績（令和5年度実績）

	⑬国際総合科学群FD・SD研修会（理学部主催）		⑭国際総合科学群FD・SD研修会（国際教養学部）		⑮第2回 教養ゼミFD・SD研修会	
	日 時	令和6年2月20日	日 時	令和6年2月22日	日 時	令和6年3月15日
	会 場	対面・オンラインのハイブリッド開催	会 場	オンライン開催	会 場	対面・オンラインのハイブリッド開催
	参加人数	21名	参加人数	47名	参加人数	65名
	講演テーマ	LMS でつくるインタラクティブな授業 ～理学部「糖鎖生物学」講義～	講演テーマ	大学におけるリベラルアーツの意義を今考える ～理系と文系がつながっていくために	講演テーマ	新年度の教養ゼミに向けて
医学科・看護学科		理学部 大関 泰裕（理学部教授）		東京大学大学院教育学研究科教授 隠岐さや香先生 （科学史・科学技術論）		本多 尚 共通教養長、 土屋 隆裕データサイエンス研究科研究科長 学術情報課担当者
	①医学会FD		②医学会FD		③医学会/医学教育センターFD	
	日 時	令和4年6月8日	日 時	令和4年7月19日	日 時	令和4年8月8日
	会 場	オンライン配信	会 場	対面開催/録画配信	会 場	対面開催/録画配信
	参加人数	36名	参加人数	（対面開催）3名/（録画配信）11名	参加人数	（対面開催）11名/（録画配信）12名
	テーマ	テンプル大学Cardiovascular Centerにおける研究と交流	テーマ	Clinical Clerkship and Medical Education at UCSD	テーマ	アメリカにおける医学教育の最先端 ～医学研究者の育成～
	講演者	テンプル大学医学部 Cardiovascular Research Center 教授 江口 暁	講演者	カルフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD） 整形外科科学部門 臨床教授 Kenneth Vitale	講演者	テキサス大学オースティン校 名誉教授 Dee U Silverthorn
	④医学科・看護学科合同FD		⑤医学教育推進部門FD		⑥看護学科・看護学専攻FD	
	日 時	令和4年8月8日	日 時	令和5年1月～令和5年2月	日 時	令和5年2月16日
	会 場	オンライン配信/録画配信	会 場	録画配信	会 場	オンライン配信
	参加人数	（オンライン配信）34名/（録画配信）13名	参加人数	60名	参加人数	30名
	講演テーマ	多職種連携教育	講演テーマ	①(2022年12月版) 医学科カリキュラムについて ②公的化を踏まえた共用試験の方向性について ③合理的配慮と障害学生支援	講演テーマ	学内の研究者の先生から研究を学ぶ 「高齢者のケアの分断を調査 Yokohama Original Medical Data Baseを用いた 横浜市 75 歳以上住民の全数調査」
	講演者	千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター センター長・教授 酒井 郁子	講演者	①医学教育学 稲森正彦 ②共用試験実施評価機構 副理事長 齊藤宣彦 ③バリアフリー支援室 コーディネーター 飯塚明雄	講演者	データサイエンス研究科 ヘルステータサイエンス専攻 金子 淳

令和5年度 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング実施報告書

1 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング開催実績

第1回 令和5年6月19日

第2回 令和5年8月23日

第3回 令和5年11月2日

第4回 令和6年1月31日

第5回 令和6年3月18日

2 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキングメンバー（敬称略）

ワーキング長	土屋 隆裕
ワーキング長補佐	中條 祐介
国際教養学部	鈴木 伸治、阿内 春生、中西 正彦
国際商学部	大澤 正俊、白石 小百合
理学部	横山 崇、大関 泰裕、北 幸海
データサイエンス学部	山崎 眞見、土屋 隆裕
事務局	小林学務・教務部長、渡邊教育推進課長、大磯学術企画担当係長、植松学長室担当係長、毛利学術企画担当、佐々木学術企画担当

令和5年度 国際総合科学群教学 IR 検討ワーキング分析結果

1. 入学から卒業後までのアンケートをつないだ経時的な分析

<取組概要>

平成30年度より「新入生アンケート（入学時実施）」、「カリキュラム評価アンケート（卒業時実施）」、「卒業生アンケート（卒後3年に実施）」の3つのアンケートに、本学の教育ポリシーに関する共通の設問※を設定し、回答結果の分析を行った。分析結果は各種会議で報告を行い、カリキュラム改善の検討を支援した。

また、分析を開始した平成30年度の新入生がすでに卒業しているため、新入生アンケート、カリキュラム評価アンケートの対象者を揃えたクロス集計を行い、経年での変化を分析した。

※「課題発見・問題解決力」「グローバルな視野」「豊かな教養」「確かな専門性」

(分析内容)

- (1) 各アンケートをつないだ経時分析
- (2) 平成30年度、令和元年度新入生の入学時、卒業時アンケートのクロス集計

<分析結果>

- (1) 本学が掲げる教育理念について、これまで入学時には期待値が高いものの、卒業時、卒後3年と徐々に下がっていく傾向が見られたが、今年度は卒業時、卒後3年の数値が同等もしくは卒後3年の数値が上回る項目もあり、本学での学修が実社会で活かされていることが伺える。

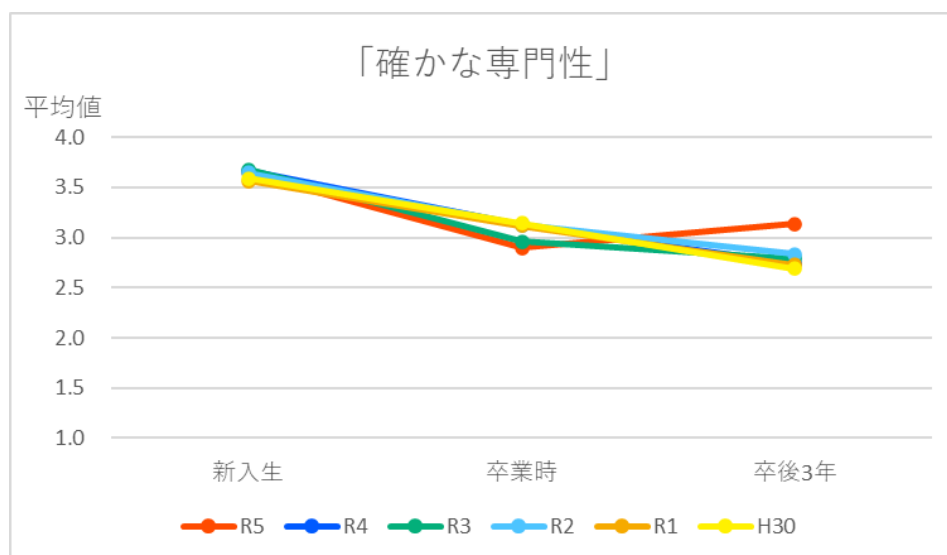


図1)「確かな専門性」の経年比較

- (2) 本学が特に重視する教育理念のうち、「グローバルな視野」について、入学時の期待値から卒業時に「身に付いた」と感じる学生が低下していることがわか

った。今回の対象学年は大学生活の途中から新型コロナウイルスの影響を受け、海外留学や海外インターンシップ等の海外経験を希望しても叶わなかった経緯があるものの、期待値を上回らなかった要因をさらに検証し、対応策を検討する。

グローバルな視野 入学年度		4 期待しない	3あまり 期待しない	2まあ 期待する	1 期待する	合計
H30	(1) とても身に付いた			11.5%	27.5%	126.0
	(2) 多少身に付いた	50.0%	50.0%	51.0%	42.6%	233.0
	(3) あまり身に付かなかった		20.0%	31.3%	25.1%	137.0
	(4) ほとんど身に付かなかった	50.0%	30.0%	6.3%	4.8%	30.0
	小計	2.0	10.0	96.0	418.0	526.0
R1	(1) とても身に付いた		5.9%	12.4%	28.4%	137.0
	(2) 多少身に付いた		17.6%	49.6%	42.8%	243.0
	(3) あまり身に付かなかった	50.0%	64.7%	32.7%	23.5%	150.0
	(4) ほとんど身に付かなかった	50.0%	11.8%	5.3%	5.3%	32.0
	小計	2.0	17.0	113.0	430.0	562.0
合計		4.0	27.0	209.0	848.0	1,088.0

図 2) H30・R1 年度入学性の入学・卒業の比較

2. 教学 IR 検討 WG における認証評価に向けた対応

<取組概要>

教育の質の保証を行うために、特に重要項目と考える 3 つの観点について、検討を進めた。教学 IR 検討 WG にて分析した結果を各学部会議で報告・共有し、学部独自の課題の洗い出し、改善に向けた検討が進められた。

<教学 IR 検討 WG で取り組む 3 つの観点>

- (1) 「各授業の内容が授与する学位に相応しい水準となっていること」
- (2) 「成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることの組織的確認」
- (3) 学修成果の可視化

(分析内容)

(1)-1 授業外学修時間の推移

※授業評価アンケートにおける授業外学修時間の設問について、以下 6 段階の回答割合を集計分析

- ⑥ 4 時間以上、⑤ 3 時間以上 4 時間未満、④ 2 時間以上 3 時間未満、
- ③ 1 時間以上 2 時間未満、② 1 時間未満、① ほとんどしなかった

(1)-2 授業外学修時間が多い科目の特徴分析

(2) 令和 5 年度科目における成績評価に関する分析

(3) 【YCU-Board ポートフォリオ機能】YCU 指標を用いた試行的な分析

<分析結果>

(1)-1 大学設置基準の単位に関する条文「1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要と

する内容をもって構成すること」を踏まえ、正規の授業時間に加えて、学生の授業外学修時間数の確認を行った。

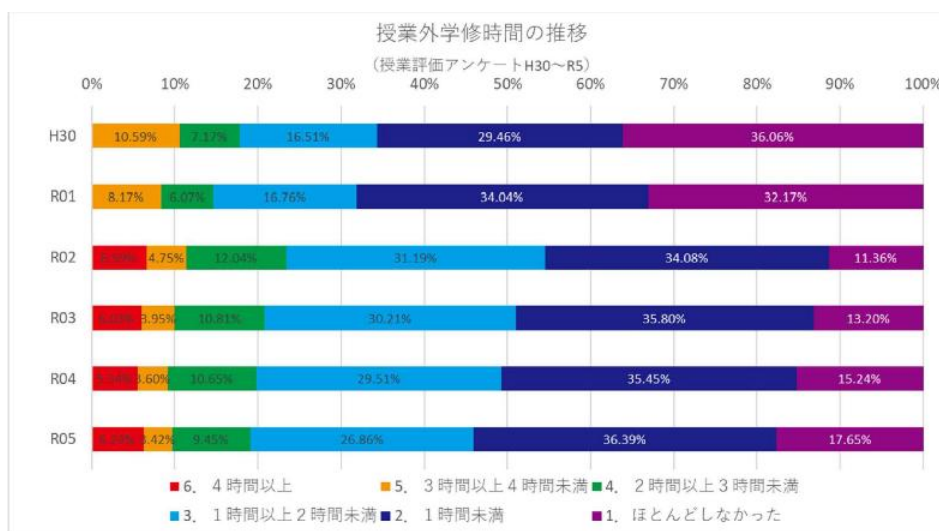


図3) 授業外学修時間の推移

令和元年度から令和2年度にかけて、「③1時間以上2時間未満」の回答割合が大きく増えていることで、授業外学修時間全体が増えており、令和5年度についても令和2年度と同様の傾向であった。しかし、令和2年度をピークに徐々に減少傾向ではあり、「②1時間未満」、「①ほとんどしなかった」の回答割合が増えていることが確認できた。(令和2年度比8.6%増)

- (1)-2 授業外学修時間の高かった科目のシラバス・YCU-Boardの記載内容、授業評価アンケートの学生からの自由記述の内容から、共通事項を分析した。授業の性質によっては全てを導入することは難しいが、参考事例として共有を行った。

【授業外学修時間が長い科目の特徴(一例)】

- ・ディスカッションや発表の機会がある。
- ・講義期間の途中で複数回課題・レポート提出がある。
- ・教員からのフィードバックがあり、進捗状況や悩んでいる部分を相談しながら進めることができる。

- (2) 令和5年度の成績評価結果を分析し、成績評価が適切に行われているか確認を行った。

- ・分野別にGPA平均値を集計し、GPA平均値が高すぎるまたは低すぎる分野・科目の確認を各学部で行った。
- ・成績登録者数によって平均値に差が見られることから、成績登録者数とGPA平均値を散布図にまとめ、評価が偏っている科目の確認を各学部で行った。
- ・各学期の集計結果だけでなく、経年変化の集計を詳細に行い、継続して成績評価が適切に実施できているか確認できるようにした。

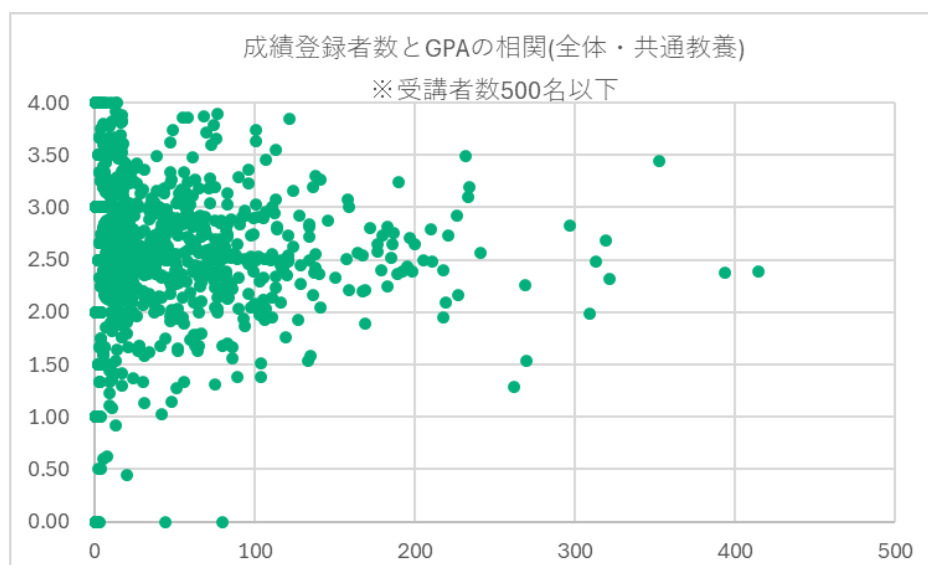


図 4) 成績登録者数と GPA 相関（共通教養科目）

(3) 令和 4 年度から導入した LMS（YCU-Board）ポートフォリオ機能「YCU 指標※」を用いた学修成果の分析について、以下 2 つの分析を昨年度から継続して試行的に実施した。

a 入試区分と YCU 指標（学修成果）の相関分析

b 留学経験と YCU 指標（学修成果）の相関分析

a、b ともに令和 4 年度 4 年次生の学修成果との掛け合わせを行い分析した。a では、推薦型選抜の学生、b では留学経験が有る学生の学修成果が高い傾向にあり、今後は該当区分の学生の志向や特徴の分析を進めていく。

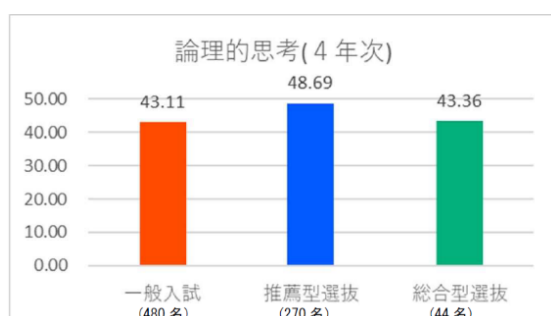


図 6) 入試区分による YCU 指標への影響

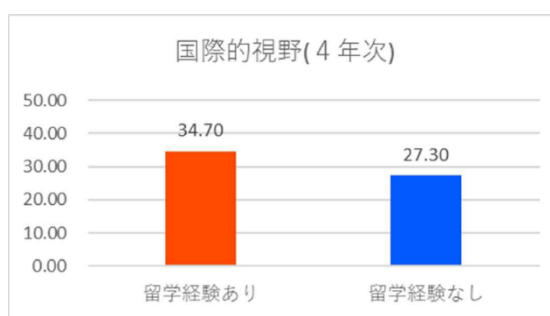


図 7) 留学経験による YCU 指標への影響

また、同様に以下の分析について、令和 5 年度新たに試行的に実施した。

c. 令和 4 年度卒業生の就職業種と学修成果項目の相関分析

結果として、不動産業、地方公務に関する業種に就職した学生は地域貢献の数値が高い等の傾向が一部で見られたが、対象データが少なく断定できる状況にはないため、来年度以降引き続き集計を行い、検証を進める。

※ディプロマポリシー等、卒業までに身に付けておくべき能力から設定した指標であり、履修科目と成績評価に応じて積算。「論理的思考」「情報リテラシー」「国際的視野」「資料作成力、プレゼンテーション」「地域貢献」「学部独自項目」

3. 全国学生調査の実施及び分析

<取組概要>

全国学生調査は令和元年度から令和4年度までの計3回、試行で実施されており、令和5年度は令和4年度調査結果の集計・分析を行い、分析結果から本学の教育における課題点を洗い出し、課題改善のためのFD・SD研修会の実施を依頼した。また、来年度実施予定の第4回試行実施に向けて、実施方式・設問の検討を行った。

(取組内容)

- ・令和4年度全国学生調査（第3回試行実施）結果の集計・分析
- ・令和6年度全国学生調査（第4回試行実施）に向けた検討

<分析結果>

大学での経験や知識・能力の獲得についての設問35項目のうち27項目で全国平均を上回った。また、生活時間に関する設問6項目について、卒業論文にかける時間数平均が全国平均を上回った一方で、授業への出席、授業外学修時間、自主学習の時間数は全国平均を下回った。

また、下記3項目については、前回調査と同様に全国平均を下回ったため、全学的な課題として取り上げた。

- ・「項目6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される」

全国平均：2.6、本学平均：2.5

- ・「項目9：ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある」

全国平均：2.5、本学平均：2.4

- ・「項目15：インターンシップ（5日間以上）」（満足度）

全国平均：3.2、本学平均：3.1

※インターンシップ未経験の割合 全国平均：80.7%、本学平均：80.9%

4. 分析結果の報告

各分析結果について各種会議にて報告・共有し、各学部におけるカリキュラム等の検証や改善を支援した。

<報告・共有した会議体>

- ・教育研究審議会（令和4年度全国学生調査（第3回試行実施）分析結果）（年1回）
- ・学長諮問会議（年1回）
- ・高等教育推進センター教学IR部門会議（年3回）
- ・各学部教授会（適宜）
- ・ICT推進委員会（年2回 ※データ活用推進部会として報告）

5. 今後の課題

(1) 学生から回答を求めるデータ(各種アンケート、目標設定等)の回答率について

授業評価アンケートや YCU-Board の目標設定等、学生に回答・記入を依頼する調査等の回答率が低い状況にあり、データの信頼性の担保や目的の達成に向けて影響が出ている。(カリキュラム評価アンケートや新入生アンケート等、回答率が 80%を超えるアンケートもある。)

アンケートを周知する際に、学生にその意義を十分に伝えるとともに、アンケート結果のフィードバックを十分に行う等、回答者の該当調査への理解が深まるよう、引き続き検討を進める。

【回答率が高い調査等】

- ・カリキュラム評価アンケート：90.59%
- ・新入生アンケート：95.20%

【回答率が低い調査等】

- ・卒業生アンケート(卒後3年の卒業生が対象)：22.6%(前回 22.8%)
- ・国際総合科学群令和5年度授業評価アンケート：前期：27.3%、後期：約20%
- ・YCU-Board 目標設定：前期：28.6%、後期：10.2%(3月14日時点)

(2) 学内収集データの把握、取得データの整理について

本学で実施しているアンケートは業務の必要性に基づいて各部署で実施されており、学生から取得しているデータの全体像が十分に把握されていない。また、取得データの内容が統一されておらず、他部署で実施しているアンケート同士を紐づけて相関や影響を分析することが円滑に進まない状況になっている。

各部署が実施するアンケートや保持している情報の把握を進めるとともに、データの統一ルールを定め、相互に活用できるよう整理を図る。

また、データの保管先が分かれており、必要な時に必要なデータを活用することが難しい状況であることから、ICT推進担当と連携し、各種アンケートのデータベース化を検討する。

(3) 各学部の自己点検評価と教学 IR の連動について

各学部で実施する自己点検評価の取組と教学 IR の取組の連携が十分にできていない。今後は、自己点検シートに記載された教学面での課題を年度当初のワーキングにて確認するとともに、目標達成に向けた取り組みを教学 IR 検討ワーキング内で継続的に実施する。

6. 令和6年度の方針について

これまでの取組は令和6年度以降も継続し、新たにアンケート結果の詳細分析や分析結果を踏まえた対応を進めることを検討している。

また、第4期中期計画では、「教学 IR と連動した FD・SD 研修会の実施」が明記されているため、FD・SD 部門とも連携し、学内のニーズに沿った FD・SD 研修会の企画・検討を進める。

令和 5 年度 医学群
教学 I R 実施報告書

はじめに

令和5年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響はございましたが、医療者の教育に欠かせない実習を中心に従来の教育が再開しております。また、Web 会議システム等を使用した遠隔での授業運用にあっても、ICT 技術を利用した、様々な工夫が凝らされるようになりました。教職員、学生の ICT スキルが急激に上昇し、その利点を生かした学修が行われております。

横浜市立大学医学部医学科においては、JACME による分野別認証評価を 2016 年 5 月に受審し、2018 年 4 月から 2024 年 3 月までの期間で認証を受けており、二巡目の受審を 2023 年秋に受審しました。正式な受審結果は令和 6 年度中に示される予定ですが、受審のなかで教学 IR 体制のさらなる整備とその体制を利用した継続的な医学教育プログラムの改良の仕組みの構築についての指摘がありました。これまでの医学科の改善状況の詳細については、毎年 JACME への報告を行い、その内容は本学ホームページ上で年次報告書として公開されています。そこでの記載に加え、2019 年から全学的な取り組みのもと、医学科と看護学科を合わせて、この報告書を作成し、公開する体制が整備されていることを幸甚に存じます。

なお医学群に所属する学生数は、医学科定員 90～93 名/学年、看護学科定員 100 名/学年と少なく、個人が特定されやすい状況を踏まえて、情報の一部について概要のみの公開となることをご容赦頂ければと考えております。

医学群教学 IR 検討ワーキング長
医学教育学 主任教授
稲森 正彦

1. 成績評価の分析（医学科・看護学科）

<取組概要>

- 1 成績評価を集計し、講義、実習、演習の授業形態別の成績評価の傾向から現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されているか」を確認した

2. 授業外学修時間の分析（医学科・看護学科）

<取組概要>

- 1 授業評価アンケート結果を用いて授業外学修時間が十分に確保できているかを確認した
- 2 学修時間を確保するための対策について意見交換した

3. 科目間相関の分析（医学科）

<取組概要>

- 1 授業科目間の成績に相関があるかを確認した。
- 2 集計データから見えた横浜市大医学部の課題を確認する。

4. 入試区分別の成績比較（医学科）

<取組概要>

- 1 入試区分別（一般、公募制、国際バカロレア）のそれぞれの入学者の成績比較を行い、入学者の傾向を確認した。
- 2 継続的な分析を行い、入試制度の改善や入学後のフォローやカリキュラム改善につなげる。

1. 成績評価の分析（医学科・看護学科）

（1）実施内容

- 1 成績評価を授業形態別に整理し、厳格かつ客観的に実施されているかを確認

（2）解析及び検討状況

- 1 成績評価を授業形態別に整理し、厳格かつ客観的に実施されているかを確認

現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されている」といえるかを確認するためにまず令和4年度科目の成績情報を定めた条件に基づいて集計した。成績情報は、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」という評価と、それを点数化するGP（グレードポイントを用いて科目群、授業形態の二つに分けて検討した。科目群についてみると、医学科、看護学科共に基礎科目と臨床科目に若干の差があるものの、概ね昨年度同様に推移していた。授業形態別で確認したところ、「講義」「演習」「実習」のそれぞれで成績評価の傾向が異なる結果となり、講義と実習を比較すると、実習の方が「秀」「優」の割合が多くなる傾向が医学科、看護学科で同様に見られたが、昨年度と同様の傾向であった。またGPを用いた解析においても同様の傾向であった。これらの結果から医学部では科目群や授業形態によって特徴はあるものの概ね適切に成績評価が実施されていると判断した。

（3）分析結果の報告

上記の分析結果について、以下の各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

- 医学群 IR ワーキング
- 医学科教授会・医学部合同運営会議

（4）添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）

2. 授業外学修時間の分析（医学科・看護学科）

（1）実施内容

- 1 授業外学修時間が十分に確保できているかを確認
- 2 学修時間を確保するための対策について意見交換

（2）解析及び検討状況

- 1 授業外学修時間が十分に確保できているかを確認

令和3年度、令和4年度の授業評価アンケートの結果をもとに、学生の授業外における学修時間の状況を把握し、大学設置基準や学部の通則に沿った授業外学修時間の確保を目標に対策を検討した。1単位の授業科目の場合、45時間の学修時間が必要だが、授業時間で補えない学修時間は授業外で行うことが必要となることを前提として確認した。医学科は、1日の講義に対する予習・復習の時間は、最も多いのが30分で約44%、1時間30分以上の時間を確保している学生が約5%であった。看護学科は、授業時間以外の1週間に行う該当科目の学修時間は、1時間未満で約33%、2時間未満が約28%で、2時間以上確保している学生は約11%であった。この結果から医学科、看護学科ともに十分な学修時間が確保できていないことを確認した。なお、解析に用いた授業評価アンケートは回答率が低く、データの信憑性乏しいのではないかと意見があり、正確な検討のためのデータ収集が課題となった。

2 学修時間を確保するための対策について意見交換

学修時間の確保には予習や復習の機会を創出することが一つ意見として挙げられた。学修時間の確保が目的ではなく、授業における理解の促進やディスカッションを活発に行うという観点を持つ必要があると提示された。医学科、看護学科ともに学年が進行すると、模擬試験や国家試験を見据えて学修時間が徐々に増えていくが、そういった学修できる環境の整備が必要であると意見が出された。その他に学習意欲を向上させる取り組みの必要性が提示された。

(3) 分析結果の報告

上記の分析結果について、下記の各種会議にて報告を行うとともに、結果を医学部教授会で報告・共有し、医学部におけるカリキュラム改善を支援した。

○医学群 IR 検討ワーキング

○医学科教授会、医学部・医学研究科合同運営会議

(4) 添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）

3. 科目間相関の分析（医学科）

(1) 実施内容

基礎系科目と臨床系科目との相関性について、それぞれの科目ごとに確認する。

(2) 解析及び検討状況

年々、基礎系科目と臨床系科目の相関が強くなっており、臨床を意識した講義を基礎系科目で行っていることが分かる。

(3) 分析結果の報告

上記の分析結果について、以下の各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

○医学群 IR ワーキング

○医学科教授会・医学部合同運営会議

(4) 添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）

4. 入試区分別の成績比較（医学科）

(1) 実施内容

- 1 入試区分別（一般、公募制、国際バカロレア）のそれぞれの入学者の成績比較し、入試区分ごとの GPA を算出した。

(2) 解析及び検討状況

推薦入学者が入学後の成績も高い傾向にある。

IB(国際バカロレア)入試の学生は、日本の一般的な教育課程を経ていないが、他の入試区分と比べて大きな差は付いていない。

(3) 分析結果の報告

上記の分析結果について、以下の各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

○医学群 IR ワーキング

○医学科教授会・医学部合同運営会議

(4) 添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）

高大連携の実施状況

年度	区分	校数	対象校
令和5	出張講義	【県立】 4校 【市立】 4校 【私立】 2校 【その他】 1校	【県立】 川和（2回）、大和（2回）、希望ヶ丘、 横浜緑ヶ丘（2回） 【市立】 金沢、横浜商業、横浜サイエンスフロンティア（2回）、南 【私立】 鎌倉女学院、田園調布学園 【その他】 静岡東
	講義体験	【県立】 1校 【市立】 2校	【県立】 横須賀大津高校 【市立】 金沢高校、横浜商業高校
令和4	出張講義	【県立】 5校 【市立】 5校 【私立】 4校 【その他】 2校	【県立】 川和(2回)、鎌倉(2回)、横浜緑ヶ丘、茅ヶ崎、横浜平沼 【市立】 東、金沢(11/15、3/23)、横浜商業（3/7、3/24）、横浜サイ エンスフロンティア（SLⅠ、SLⅢ）、南（7/6、10/28） 【私立】 順天(2回)、田園調布学園、鎌倉女学院、カリタス女子 【その他】 静岡東、武蔵野北、太田
	講義体験	【県立】 2校 【市立】 3校	麻溝台、茅ヶ崎北陵 金沢、南、横浜商業
令和3	出張講義	【県立】 5校 【市立】 5校 【私立】 4校 【その他】 2校	【県立】 川和(2回)、鎌倉(2回)、横浜緑ヶ丘、茅ヶ崎、横浜平沼 【市立】 東、金沢(11/15、3/23)、横浜商業（3/7、3/24）、横浜サイ エンスフロンティア（SLⅠ、SLⅢ）、南（7/6、10/28） 【私立】 順天(2回)、田園調布学園、鎌倉女学院、カリタス女子 【その他】 静岡東、武蔵野北、太田
	講義体験	【市立】 3校	【市立】 金沢(8/2-6)、横浜サイエンスフロンティア（11/18）、横浜 商業（10/11）
令和2	出張講義	【県立】 4校 【市立】 1校 【私立】 2校 【その他】 2校	【県立】 川和(2回)、横浜緑ヶ丘(2回)、神奈川総合、多摩 【市立】 東 【私立】 田園調布学園、順天（2回） 【その他】 （県立）三島北、千葉北 ※【その他】 高校の記載判断は一任します。
	講義体験	【市立】 1校	【市立】 横浜商業 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施していた正規授 業への受け入れを中止しました
令和元	出張講義	【県立】 5校 【市立】 4校 【私立】 4校 【その他】 6校	【県立】 横浜平沼、川和、希望ヶ丘、横浜緑ヶ丘（2回）、横浜栄 【市立】 横浜サイエンスフロンティア(2回)、東、金沢、南 【私立】 国際基督教大学、田園調布学園、順天、本郷 【その他】 （都立）小松川、南平、武蔵野北 （県立）三島北、静岡東 （市立）大宮北 ※【その他】 高校の記載判断は一任します。
	講義体験	【県立】 1校 【市立】 4校	【県立】 横浜翠嵐 【市立】 金沢、横浜商業、サイエンスフロンティア、南